

伊達の松風

題字 松浦常雄

第70号
令和5年3月25日
発行者
福島県公立学校
退職校長会伊達支部長
古宮 睦 男

『伊達の松風』第70号 発行に当たって



伊達副支部長
渡辺 勝則

新型コロナが発生して以来、生活様式は「親しい密」から「距離の確保と疎」に一変しました。県は勿論、支部も文書活動となり、運営でお世話になってる方部会員の皆様との交流も皆無に等しくなりました。五月に「二類」から「五類」へ移行が決定しました。不安材料が数多く残っていますが、少しでも元の生活に戻れることを強く願っているところです。

今回、この会報が記念となる第七〇号になりました。つきましては記録を兼ね、以下の三点について述べさせていただきます。

一 組織の発足について

昭和四〇年、退職後の生活を目的として県下一斉に発足。本支部は会員の交流を深めるために研修旅行を中心に趣味の活動を推進。

二 会報について

伊達支部報「語らい」第五号から昭和六十二年「伊達の松風」と改称し年一回の発行。平成三年、第二十六回福島県校長会保原大会を機に年二回の発行。クラブ活動の勧誘、会員からの寄稿を求め「がんばっています」「元気です」欄の設置。現在は「十年目の近況」に変更。平成四年から教育長様の寄稿を頂く。平成十八年からサイズをA4に変更。

三 課題と今後について

平成二十五年に既に課題となっているのですが、学校数の減少、地区以外の校長先生の増加に伴う会員の減少です。さらに入会されない方や年金の受給問題が役員選出を難しい状況にしていることです。コロナ禍で会員の皆様との架け橋になったのは会報でした。編集委員長さんを中心に会報の重要性を認識し一層努力していきたいと思えます。また、会員の減少に伴う組織の意義・活動内容の吟味等を会員の皆様と一緒に検討していければと考えております。

わが町の教育



国見町教育委員会教育長 菊地 弘美

国見のこれからの教育

令和二年に始まった新型コロナウイルス感染症。一日当たりの陽性者は、昨年の第七波で二十六万人を超えました。この間、学校現場では、長期の休業や様々な行事の中止・規模の縮小、また、新しい生活様式への対応などに追われてきました。この間の先生方のご努力に改めて敬意と感謝を表します。

でも、誰がこの状況を想像できただでしょうか。新型感染症だけでなく、近年は、地球温暖化による異常気象、テクノロジーの急速な進歩など、私たちが生きる社会は、先を予測することがとても困難であるように感じます。今の子どもたちが社会に出るときに必要な「力」とは何でしょうか。

国見町では、平成二十六年に、幼小中一貫教育を掲げコミュニティスクール「くにみ学園」がスタートしました。この一貫教育に必要なのは、幼小中の先生方の思いの共有です。「国見町教育研

究会」の協力を得て、幼小中の連携を進めてきました。子どもたちによる巨大アートの作成を通じて、校種の枠を超えた先生同士の学び合いも生まれていました。

しかし、新型感染症は、距離が離れていることでの連携の難しさを感じさせるものとなりました。校種の枠を超えた距離の近い関係での先生方の交流、保育と教育の連携の大切さを実感しています。

これらの関係は、異年齢の子どもたちの日常の交わりを自然に促して行くことにも繋がります。国見の子どもたちへのこれからの教育について、検討が始まったところ。こども園と義務教育学校が一つの「くにみ学園」。子どもは、好きなことに夢中になり自ら学びに向かいます。大人も子どももワクワクする学校にしたいですね。



10年目の近況



主任児童委員とアマチュア無線

〔梁川方部 原田 徳好〕



退職後、縁あって現在も主任児童委員を務めています。子ども

たちを福祉の面からサポートできればと考えながらの活動です。

経済的に厳しい家庭の子どもたちに対しての「フードバンク」の立ち上げや、進学に向けての学習支援、そして、子どもたちの居場所づくりとしての「子ども食堂」のサポートなどで協力できました。これらの活動が、今、伊達市全域に広がりつつあります。

近年は、児童虐待への対応が大ききな課題になってきています。学校だけでは解決できず、児童相談所や警察署、市の子ども部、民生児童委員などと連携を図りながら取り組んでいるというのが現状です。子どもたちの健やかな成長を祈りながら、もうしばらくこの主任児童委員としての活動を続けて

みようと思っています。趣味のアマチュア無線は、ようやく三年前から再開することができました。約十五年ぶりのカムバックは、浦島太郎状態でした。今は、コンピュータを利用した新しい通信方法を学んだり、モールス信号でのデビューを目指したり、

アートギャラリー

風景を撮る



月館方部 矢館 実也
写真撮影は、退職後の職場で誘われて本格的に始めました。セミ



ゆつくりマイペースで楽しもうと思っています。何より嬉しいのは、三十年前に交信した局との再会です。思わず、若かりしころの昔話に花が咲きます。



プロ級のメンバーのサークルに入れてもらい、感動的な作品をたくさん見せてもらうとともに、何をするように撮影すればよいかを、毎月の定例会で学んでいます。

この作品「清明」は、令和二年二月二日午前八時頃に、北塩原村檜原湖で撮影したものです。当日、銀世界の檜原湖を想像して行ったのですが、この年は、暖冬のため全面凍結していませんでした。それがかえって、朝陽が射し込んで明るく光る霧を背景に、寒々とした湖上の雪面に立つ木々が、印象的な写真となったようです。工夫としては、木々を中心に置き(日の丸構図)、手前に水面を入れたところですが。

今後、できるだけ身近な場所でも感動を見出し出していこうと思います。重い機材を持ってあちこち歩きまわるので体も鍛えられ、一石二鳥の趣味となっています。

五七五クラブ

俳句

はや三日病床遙かどろろの香野仏の顔なつかしや二月尽

〔梁川方部〕津村 栄

しろばんば初雪招く師走かな檀(まゆみ)の実真つ赤に照らす峠道

〔国見方部〕中村 洋平

寒ざらし息を潜めるピオトープ

〔霊山方部〕丹治 睦雄

川柳

少子化が年金制度こわしそう大臣になったばかりにバレた過去

中村 洋平

今年また年の数ほど恥覚悟ひと唸りふた唸りさせ仕込み酒

津村 栄

彼岸花冬の姿に再発見

長き夢今こそ形にあずま小屋

飲み葉月末にいつも数合わず

丹治 睦雄

短歌

生と死の渦巻き居れるこの宇宙のがるることの能はぬわれら

津村 栄

カラオケのマイク片手に唄ってる友はいっつも新曲ばかり

中村 洋平



祝・賀寿 九十五歳

〔保原北方部〕八巻 誠様

(昭和二年十一月六日生)



令和四年十一月六日のお誕生日にご自宅を訪問し、福島県公立学校退職校長会からの表彰状、額縁、記念品を古宮支部長から贈呈いたしました。少し足が不自由な様子でしたが、奥様と二人、お元気にご自宅で生活されています。

長生きのコツは「くよくよしないこと」だそうです。以前は囲碁を嗜み、伊達支部の囲碁クラブにも参加されていました。最近では、きれいに整備された日本庭園のお庭を散歩されるのが日課になっていくとのことでした。



祝・賀詞 八十八歳

令和四年には四名の皆様が満八十八歳の米寿を迎えられました。誕生日に訪問する事にしており皆様には快く都合をつけていただき、支部長より全国連合退職校長会からの賀詞の賞状を伝達させていただきました。誕生の年は昭和九年で東北地方が大凶作に見舞われた年です。また、渋谷の中犬ハチ公像完成や野球のペーブ・ルース来日も同年で、組立模型やサロンパス、赤城の子守歌が流行しました。それではお一人ずつお生まれ順にご紹介申し上げます。

〔梁川北方部〕川上 重明様

(昭和九年六月二十七日生)



お元気に過ごされ、ご自宅の広い敷地の手入れに励まれているとのこと。訪問時は学校現場での教諭や管理職での経験談、筑波の中央研修での思い出等のお話に花が咲きました。

また、短歌を生きがいにされて半世紀以上も携われ、福島県文学賞正賞を受賞されています。現在も現役で未来短歌会に所属し活躍されています。機関誌「未来」に掲載の中か

ら一句紹介します。「独りの意に動く歴史の過ちを踏み止まらず手だては無きか」

〔梁川方部〕津村 栄様

(昭和九年九月八日生)



ご自身の幼少期からの生き様を詳しくお聞きしました。小中学校時代の恩師に恵まれ、俳句とともに生きる人生が始まったとのこと。数え切れないほどの俳句、川柳等を作られて、数々の入賞経験もあり、現在も新聞に投稿しておられます。

また、退職校長会でも俳句クラブの世話人として長くお世話になっています。最近、俳句を詠まれる人が少なくなってきたので、退職校長会員の皆様にも是非参加してほしい、ほけ防止に最適とお誘いいただきました。米寿祝を受けての一句を紹介いたします。

「米寿発 予約の切符は白寿行」

〔梁川方部〕大竹 英智様

(昭和九年九月十二日生)



川俣町の統合校での単身赴任の校長時代、退職校となつた桑折町

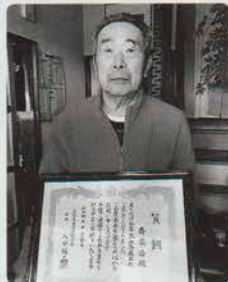
の校長時代のエピソード、世話になった先生方のことを懐かしくお話しされていました。

令和元年の台風十九号の水害で大きな被害を受けたご自宅も復旧し、ご夫婦で安寧にお暮らしです。散歩や俳句作りで日々を過ごされています。NHK俳句に投稿し入選された句を紹介いたします。

「竿端に寄りし千葉の軽さかな」

〔保原南方部〕齋藤 浩様

(昭和九年十月三十日生)



退職後、退職教職員互助会の役員を長く務められ、退職教職員の生活サポートを中心とした事業や互助会の健全運営にご尽力されました。

現在は、奥様とお二人でお元気に過ごされています。天気の良い日はのんびりとご近所を散歩されたり、畑に向き野菜作りに励まれたりしておられます。いつの間にか米寿を迎え、お世話になった周りの方々への感謝の気持ちで生活しているとのこと。

皆様には、いつまでも、お元気で過ごされ、後輩の我々をどうぞご指導ください。



我が町のこころ * 伊達方面の風景 *



「伊達方面」穴戸 正幸



国道四号線を車で走ると以前とは大きく景色が変わって来ているこ

とを感じる。
東北中央道路の高架橋、令和六年開業予定の東北最大級と言われる商業施設の建設現場、以前カツパ王国のあった場所は大型自動車販売店となっている。

伊達交差点の混雑は伊達橋不通の影響が大きく、それほどでもない。

伊達駅方面に向かうと改築なった伊達小学校の屋内運動場が見える。令和五年度中には新校舎が完成すると聞いている。

駅前が整備され、周辺は新築の住宅街が広がってきている。

変化が激しい川西地区と比べ、川東地区は東北中央道路の土手が伏黒地区に分断している以外に大きな変化は見られない。

399号線の通行車輛が極端に少ない現状を見ると、一日でも早い伊達橋の開通を心から願うばかりである。

学校現場から

「決意」

伊達市立石田小学校長 本田 一意



令和五年三月三十一日、この日が伊達市立石田小学校最後の一日となります。

これまで閉校を迎えた各校のホームページを拝見しますと、先生方の思いがひしひしと伝わってきます。子どもたちとの出会い、深まりゆく学びへの寄り添い、育ちとの格闘そして保護者の皆様・地域の皆様との連携への感動。こうした思いが駆け巡ったのでは…と想像するのは、「学校」での様々な経験は教師としての力量を高め、人としての厚みをもたせてくれるということも。「予測困難」「少子高齢化」など「不安」がクローズアップされがちですが、誰かがそれを引き起こしたわけではなく、様々な営みがあった上での、ごく自然な帰結であったのかも知れません。大切なのは、受けた生を意味あるものとしてしっかりと生き抜くこと、その素晴らしさを必ず経験できるという自信を持たせることが学校教育なのだ、ということなのかも知れません。もちろん制度として学校教育が果たすべき使命や役割は当然あります。心の持ち方として、そうであってよいのでは…と思うのです。

その学校が一つ、役目を終えようとしています。当事者として関わられたことは、寂しさはありますが、大変光栄なことでもあります。地域の方々が「子どもたちにとって、今は最善の環境なのだろうか」と問いかけ出した答えが「閉校」そして「統合」でした。さらに、よりよい学びの環境を創造できないかとも模索されています。この理念に触れたときの心の震えを忘れることはできません。

子どもたちの学びに終わりはありません。私たち自身がよりよく生きるため、そしてその過程をより価値あるもの、意義のあるものとするため、最善を尽くそうとすることにも終わりはありません。この積み重ねの先には、「創造」や「可能性」そして「未来」が待っているはず。子どもたちが胸を張って新しい世界に踏み出していきけるよう、最後まで石田小学校の教育を推進してまいります。



運動会を終えて、地域の皆さんと



学習発表会でのダンス発表

事務局より

《令和五年度総会のお知らせ》

■日時 令和五年四月二十二日(土)

■会場 保原中央交流館(予定)

新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、令和四年度まで三年連続の紙面総会となっておりますが今年こそは開催し、会員の皆様の元気なお姿を拝見し合いたいところです。

今回も感染状況を踏まえ、実施形態や感染症防止対策の徹底を十分検討した上で、開催を判断します。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

【訃報】

秋葉 芳 吉祥(保原南九十二才)

(令和五年二月十四日逝去)



昨年は、世界中でコロナ・異常気象・紛争・経済不況等々の出来事とありました。短期間に生活様式のみならず生き方まで一変してしまいうでした。

しかしその様な中で、サムライブルーサッカーチームは、カタール大会で素晴らしい「戦」をみせブラボの歓喜のことはを教えてくださいました。今年も努力すれば報われる「戦」が一つでも多く、どんな小さな事でもよいので、叶えられますよう皆と一緒に祈りたいと思います。(T・A)